



特集1

・東京の無電柱化

特集2

・都立庭園 紅葉めぐりスタンプラリー
・秋の小石川後楽園「深山紅葉を楽しむ」
・冬も楽しい夢の島熱帯植物館「熱帯のクリスマス展」・「干支の植物展」

特別特集

・青梅市と日の出町を結ぶ梅ヶ谷トンネルが開通



巣鴨地蔵通り(無電柱化された街並み)



六義園 つつじ茶屋(紅葉)



梅ヶ谷トンネルの開通

東京の無電柱化

毎年11月10日は「無電柱化の日」です

どうして無電柱化が必要なの？

東京では、戦後、都市の発展に伴い、多くの電柱が建てられてきました。その結果、電線が張り巡らされ、電柱が立ち並び、都市景観を損ねるだけでなく、歩行者や車いすの通行の妨げになっています。また、災害時に電柱が倒れ、道路が塞がってしまう恐れがあります。さらに、首都直下地震が発生した場合にも甚大な被害が想定されることから、無電柱化の重要性が一層高まっています。

都内の電柱の本数	
道路種別	数量(本)
都道	約53,300
区市町村道	約633,700
合計	約687,000

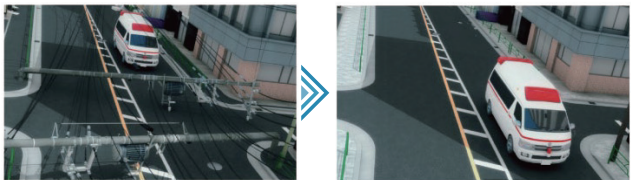
(令和4年度末現在)



令和元年台風15号の影響による電柱倒壊(新島村 若郷地区)

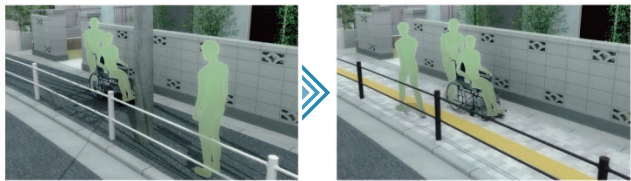
無電柱化の目的は？

災害時、いざという時に



災害時に電柱が倒れて救急車や消防車の通行を妨げることがなくなります。また、電気や電話などのライフラインも壊れにくくなります。

歩きやすく安全な歩道に



電柱がなくなること歩道は歩きやすくなり、ベビーカーや車いすなども安全に通行できます。

スッキリした東京の空へ



視線をさえぎる電線や電柱がなくなり、美しい街が生まれます。

都道の無電柱化はどこまで進んでいるの？

東京都では昭和61年度から計画的に無電柱化を進めています。計画幅員で完成した都道における地中化率は、令和4年度末現在で区部は65%、多摩地域は22%、都道全体では46%となり、整備累計延長は1,067kmとなっています。

※地中化率：整備対象延長に対する、電線共同溝本体が整備された延長の比率をいう。

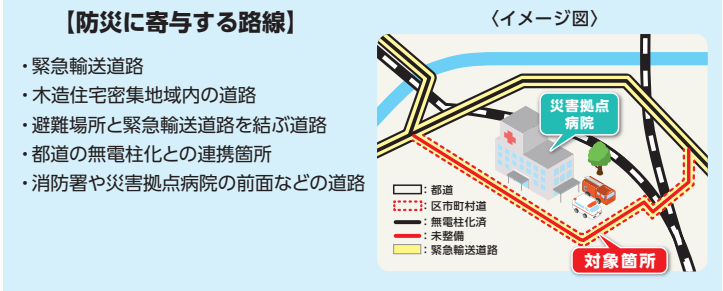
無電柱化はどのようなところで進めているの？

都道

重点的に整備するエリアを、概ね整備が完了したセンター・コア・エリアの内側から環状七号線の内側に拡大し、整備を進めています。また、災害時の避難や救急活動、物資輸送を担い、行政機関の本庁舎や災害拠点病院、重要港湾、空港などを連絡する第一次緊急輸送道路を重点的に整備しています。

区市町村道

センター・コア・エリア内や主要駅及び主要観光地周辺等に加え、「防災に寄与する路線」を対象として、財政支援と技術支援を行っています。



島しょ地域

防災性向上を早期に実現する観点から下記の区分に分類し、計画的に整備を進めていきます。



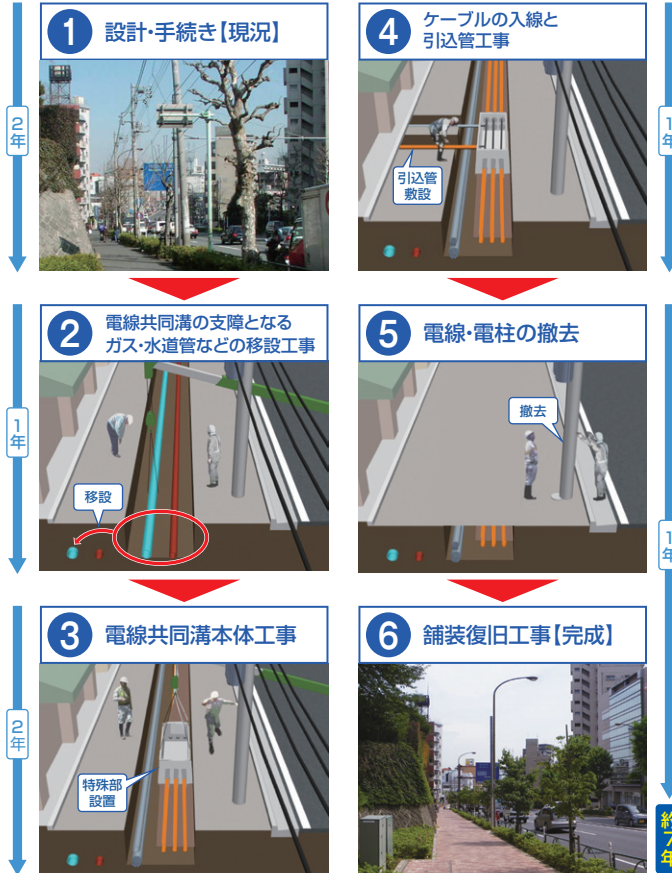
「電柱のない島」の実現に向けた取組

「電柱のない島」の実現に向け、先行整備する島として利島及び御蔵島を対象とした「利島・御蔵島無電柱化整備計画～電柱のない島に向けて～」を策定しました。

都道や港のみならず村道等(民有地なども含む。)についても無電柱化を実施することで、無電柱化の効果を更に高め、防災性の向上を図るとともに良好な景観を創出します。

どうやって無電柱化しているの？

東京都では、電線共同溝方式による無電柱化を行っています。電線共同溝とは電線を地下に収容するための施設です。整備にあたっては、水道管やガス管などが埋設されている地下空間に新たに埋設するため、標準的な施工単位(道路延長約400m)の整備に一般的に約7年程度かかります。



第4回
「無電柱化の日」
フォトコンテスト
入賞作品発表

令和6年11月8日(金) 午後12時に東京都庁にて、入賞者の表彰を行う予定です。なお、本イベントの様子は東京都公式動画チャンネル「東京動画」でライブ配信する予定です。(動画は後日も視聴可能です)

問合せ先
道路管理部安全施設課無電柱化推進担当
TEL:03-5320-5305
HP:<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/road/kanri/gaiyo/chichuka/mudentyuuka-top.html>

ぜひご覧ください!



いきものへの興味を開く扉 モルモット

恩賜上野動物園 子供動物園係 松田明音

ずんぐりとした丸い体を持ち、短い足でとことこ歩くモルモットは上野動物園の子ども動物園すてっぷで大人気の動物です。日本ではモルモットとして馴染みですが、正式な和名を「テンジクネズミ」といい、昔から家畜やペットとして人間と共に暮らしてきました。毛の色や質、体の模様が様々なこともモルモットの魅力です。子ども動物園すてっぷで生まれるモルモットの子は親と違う色や模様であることも多く、バラエティー豊かな見た目のモルモットたちをご覧ください。

子ども動物園すてっぷでは平日の午後、体験プログラム「モルモットとなかよし」を開催しています。スタッフの補助のもと、モルモットをじっくり観察する人気のプログラムです。動物の健康に配慮し、十分に人に慣れた個体を選んだうえで、モルモットがオーバーワークとならないよう参加人数を制限し、オンラインによる事前予約制としています。

モルモットは動物園でよく見る動物ですが、実際にふれると新しい発見があるかもしれません。モルモットを膝に乗せてそっと撫でてみたり、命の温かさを感じたりする体験から子どもたちが小さな命を大切に思い、いきものを観察することの面白さを知るきっかけになると嬉しいです。いきものへの興味を開く扉＝モルモットにぜひ会いに来てください!

動物園の“かお”

多摩動物公園
アムールトラ



撮影日：2024年8月23日

生後4ヶ月のアムールトラの子「フタバ」。左の写真は真夏の暑い日の一コマです。母親の「イチ」と元気いっぱい水遊びをしています。まだまだかわい盛りです。来園の際は、ぜひご覧ください。